

「晴れと雨 優しさと厳しき ～実りの秋に向けて～」

校長 根本愛子

45日間の夏休みが終わり、生徒たちの元気な姿と笑顔が学校に戻ってきました。夏休み期間は、部活動やクラブ活動、各種大会、職場体験、高校見学、面談、課題等と、生徒にとっても忙しい毎日ではあったと思いますが、夏休みにしかできないこと、夏休みだからできる体験等を通して、頭と身体と心のエネルギーをためることができたのではないのでしょうか。 新学期が始まって1週間、子ども達と触れあいながら、大きな事故や事件がなかったことにあらためて感謝しています。

さて、近年、毎年のように異常気象の度合いが高くなり、雨や暑さが、マイナスイメージでとらえられています。夏休み後半から新学期にかけて、日本列島を襲った台風10号も、従来の台風とは全く違った動きでした。

しかしながら、草木の成長になくはならないものが、雨の日であり、よく晴れた日です。雨ばかり降っていけば根が腐って病気になるし、暑すぎる晴ればかりが続けば水分がなくなって枯れてしまいます。ちょうど良い加減とバランスが繰り返されることで、幹や枝が大きくなり、葉も生い茂ります。 同様に、思春期の子ども心の成長にも、「優しき」と「厳しき」が必要です。「優しき」だけでは甘えやわがママが出てしまいます。逆に「厳しき」だけでも気持ちがすきんだり、いじけたりしてしまい、よい心は育ちません。過った行為をしたときは、その行為について、きちんと叱ったり、なぜ叱られたのかに気づいたら、ほめ、励ましたりするバランスが大切です。子どもたちは、ほめられたり、叱られたりすることを繰り返し経験して、的確な判断ができるようになっていきます。

2学期には、日々の授業に加え、輝閣祭、体育祭等の学校行事や出前授業、新人戦等と、多くの学びや体験を予定しています。それぞれの場面で、一人ひとりの生徒が「実りの秋」を実感できるような、バランスよい支援に力を尽くしてまいります。どうぞ、保護者の皆様、地域の皆様も「チーム関城中」の一員として、ご理解とご協力を賜りますよう、お願いいたします。

今月の関中ワード

○「できない理由を探すより、できる方法を考えよう！」

どんな場面でも、あきらめず、前向きに解決しようとする、きっと道が開ける！